

## 栃木県立美術館中期計画－第3期－

### 1 本計画の趣旨及び期間

#### (1) 趣旨

本計画は、栃木県立美術館評価システム運営要領に基づく中期計画として、当館の運営方針の他、県議会からの提言（県民に開かれた美術館の確立、他の美術館等との連携強化、情報発信力の強化等）、栃木県文化振興計画（第2期）、栃木県「文化と知」の創造拠点整備構想等を踏まえ、今後5年間の事業の方向性等を定めたものである。

#### (2) 期間

令和8年度から令和12年度の5年間

### 2 事業の方向性等

#### (1) 調査研究

- ・本県の文化芸術の拠点施設としての自負のもと、真摯かつ積極的に調査研究を推進する。
- ・概ね明治以降の本県ゆかりの美術作家及び作品、イギリス・フランス等の18世紀後半以降の美術の調査研究を継続する。
- ・本県ゆかりの現役作家に積極的に目を向けるとともに、わが国はもちろん、世界の現代美術の研究に努める。
- ・メディア芸術等、幅広い分野の芸術活動にも関心を持ち、新たな研究テーマの開拓に努める。
- ・他館・研究機関等との相互連携強化に努める。
- ・国や財団等が提供する科学研究費をはじめとする助成金や研修機会等への積極的な応募・参加に努める。

#### (2) 収集・保存

- ・栃木県立美術館美術作品等収集方針に則り、将来にわたり適切な収集を継続するため情報収集に努める。特に本県ゆかりの貴重な作品については散逸防止の観点からも、日頃から関係者との交流に努める。
- ・収集した作品については県民の貴重な財産として厳格に保存しながら、当館での展示、国内外の他館への貸出により活用を図る。
- ・収集した作品のデジタルアーカイブ化を推進し、効率的な管理に生かすとともに、インターネット上で広く公開し、バーチャルな鑑賞機会の提供等に活用していく。

#### (3) 展覧会

- ・年間4回の企画展開催と年間4回のコレクション展開催、さらには年間2回以上の館外展（アートリンクとちぎ）の実施を目標に、情報収集、調査研究、関係先との交渉等、必要な開催準備を計画的に進める。
- ・企画展については、当館の調査研究の成果を生かした質の高い展示の他、本県ゆかりの作家の掘り起こし・顕彰、メディア芸術等の新たな分野に関する企画等、多様な鑑賞ニーズを踏まえた魅力的な展示を検討していく。
- ・巡回展・合同展に開催への参画は、海外の美術作品を含む大規模な展覧会開催や、コスト・労力の軽減、学芸員同士の交流促進等も期待されることから、日頃から他館との連携を密にし、開催情報等の収集や共同企画の検討に努める。

- ・文化芸術の振興に高い関心を持つ民間企業等との共催・協賛による展覧会開催は、開催規模の拡充、県民の認知度向上、集客力強化等、大きな成果を挙げていることから、引き続き積極的に連携を図る。
- ・企画展の観覧料については、入館者に過度な負担が生じないように配慮しつつ、運営に必要な経費を確保できるよう、適切な額を設定する。
- ・コレクション展については、テーマを設けた展示や音声ガイドの活用促進を図りながら、親しみやすく紹介する。
- ・館外展（アートリンクとちぎ）については、宇都宮市以外に居住する方々も当館コレクションに気軽に親しめるよう、多数の県内各市町での開催を目指し、市町との連携をより密にしていく。
- ・企画展関連のギャラリートーク、ワークショップ、コンサート等のイベントについては、入館者がプラス・アルファの魅力として楽しめることから、積極的に実施する。また、コレクション展関連のイベント実施にも努める。

#### （４）普及教育

- ・これまでの実績を踏まえ、幅広い世代を対象とした参加型・体験型のイベントやワークショップを継続的に実施し、県民に対する文化芸術の普及に努めるとともに、当館のファン獲得・定着を図る。
- ・幼少期から美術に親しむことができる環境づくりの重要性を踏まえ、子ども向け・親子向け企画の充実に努める。
- ・学校からの団体観覧を積極的に受け入れるとともに、各学校の要望に応じて作品解説や対話型鑑賞等を実施し、鑑賞教育の充実に寄与する。移動手段に課題を抱えている学校に対しては、県有バスの活用（アートクルーズ事業）を促す。
- ・学校教育と県内各美術館との連携強化を図るため、当館が主体となって美術教員と美術館職員によるネットワーク（あーとネットとちぎ）を運営し、学校現場が抱える課題を共有しながら、先進的な実践例に係る情報交換や、鑑賞教育に効果的な教材の開発・活用に係る協議等を行う。
- ・美術教員からの個別の相談等にも随時対応し、美術館の活用方法や鑑賞教育等について情報提供・助言等を行う。オンライン活用による相談対応等の手法も検討し、利用しやすい環境づくりに努める。

#### （５）施設管理

- ・開館から 50 年以上が経過し老朽化が進行している現状を踏まえ、日頃から機械・設備管理上のリスク把握に努め、不具合発生時には応急処置を講じた上で、速やかに改修・修繕等を行う。
- ・不測の改修経費等を要する場合は、速やかに主管課と情報共有し、予算の確保や代替案の検討を行い、館運営への影響を最小限に留める。
- ・多数の入館者が想定され、混雑や周辺道路の渋滞等が生じるおそれがある場合は、警備員や受付スタッフ等の増員、混雑状況に応じたサインの掲示、SNS 等による注意喚起等を適宜実施し、事故やトラブルの発生防止に万全を期する。

#### （６）県域の中核美術館としての取組

- ・当館職員が日頃から県域の中核美術館としての役割意識を持って、県内外の美術館等との主

体的な交流、市町美術館等からの各種要請に対する適切な支援、栃木県博物館協会の活動への積極的な協力等に取り組み、地域の文化振興に貢献する。

- ・当館が培ってきた研究成果や活動実績を生かし、学会・研究会・委員会等での積極的な発表や提言、研究者・学生等に対するきめ細かなレファレンスサービスの提供、学芸員実習における丁寧な助言・指導等にも力を入れ、文化芸術に係る研究や人材育成に寄与する。

#### (7) 広報

- ・県民に対する地元メディア（新聞・テレビ・ラジオ・タウン誌等）の強い発信力を活用し、展覧会に係る記事や広告の掲載、展示・収蔵作品や作家に係る解説記事の寄稿等を行い、美術館や展覧会に係る認知度向上を図る。
- ・リアルタイムかつ高頻度の情報発信等、インターネットの特性を生かし、美術館ホームページやSNSを活用した広報活動にも力を入れる。特にSNSについては、投稿内容に共感した個人による拡散が期待できるため、積極的に発信していく。
- ・デジタルサイネージやウェブ広告等、新たな媒体の活用も積極的に検討し、展覧会のテーマや主たるターゲット層を踏まえ、その内容に即した広報媒体の活用に努める。
- ・栃木県と包括連携協定を締結する民間企業等に対し、広報等の協力を依頼し、当館の取り組みの認知度向上を図る。

#### (8) 入館者数

- ・第2期中期計画では、第1期中期計画の目標値の1割増に当たる248,000人(年間49,600人)を目指し、自主企画展覧会の伝統を尊重しつつ、集客を見込める展覧会実施に取り組んだ結果、目標を大きく上回る入館者数を記録した。
- ・これまでの成果を踏まえ、さらなる集客力の強化に取り組むこととし、第3期中期計画の目標値は、第2期中期計画の目標値の約4割増を目指し、350,000人(年間70,000人)とする。

#### (9) 様々な主体との連携

##### ア 栃木県立美術館友の会

- ・当館運営上の最も身近で重要なパートナーであることから、公立美術館として適切な範囲で、事業の企画・運営や組織のあり方等について、支援・協力していく。

##### イ ミュージアムショップ及びレストラン

- ・ミュージアムショップ及びレストランは、美術鑑賞体験を充実させるために重要な役割を有することから、各運営事業者と密に連携して、展覧会の内容と連動した商品展開やメニュー作成等に積極的に協力し、入館者の満足度向上を図る。

##### ウ ボランティア

- ・高校生・大学生ボランティアの活躍は、普及教育活動に大きく貢献しており、利用者からも好評を得ていることから、連携先の学校等と協力関係の維持・充実に努める。
- ・広報業務ボランティアは、業務に習熟したスタッフが、展覧会ごとに作成されるポスター・チラシの膨大な広報資材の発送作業等を担っている。今後も協力関係を維持し、必要に応じて新規ボランティアの確保に努める。

#### (10) 危機管理

- ・自然災害、火災、事件・事故等に備え、危機管理マニュアルを整備し、職員と委託業者等との連携体制を明確にし、入館者、周辺住民、職員等の安全を確保する。
- ・自然災害等が発生した場合は、入館者等の安全を確保した上で、当館が収集した作品及び展

示のために他館等から借用した作品の保護・避難にも万全を期する。

- ・入館者等の傷病に際しては、その程度に応じ、救護室の利用、救急搬送の要請、AEDによる救命等、必要な措置を迅速に行う。
- ・施設管理上の不備による事故等、当館が賠償責任を負うべき事案の発生に備え、施設賠償責任保険やボランティア保険への加入等のリスク対策を講じ、事案発生時には速やかに補償手続きを行う。
- ・栃木県情報セキュリティ基本方針等に基づき、情報資産を適切に管理するためのセキュリティ対策を講じるとともに、サイバー攻撃、情報流出等のインシデントが発生した場合には、庁内関係部署への報告と被害者対応を迅速に行い、適切な事後対策を講じて被害の拡大を防止する。
- ・感染症のまん延又はそのおそれがある場合は、コロナ禍の経験を生かしつつ、国・県等による注意喚起の内容を踏まえ、必要な感染対策を講じる。非常事態宣言が発出される等、深刻な警戒度レベルに至った場合は、展覧会の中止又は会期短縮についても検討する。

#### (11) 開かれた美術館づくり

- ・子どもとその保護者、妊娠中の方、若者、高齢者、障害者、外国人等、多様な対象者を意識した多彩な展覧会や普及教育事業の実施、移動やコミュニケーションにおけるバリア解消等、誰もが利用しやすい開かれた美術館づくりを目指す。

#### (12) 地域の活力向上への寄与

- ・文化観光、まちづくり、福祉、産業等に係る地域の課題にも目を向け、様々な分野の企業・団体等と協力関係を築き、豊かな地域社会の形成に貢献する。

#### (13) 「文化と知」の創造拠点整備構想を踏まえた取組

- ・整備事業が円滑に進捗するよう、関係部署と密に連携し、新たな美術館に求められる機能や役割を整えるために必要な情報提供・提案等を積極的に行う。
- ・整備スケジュールの具体化に合わせ、移転手順や休館期間等を検討していく。

### 3 自己評価及び外部評価

#### (1) 自己評価

定量的評価及び定性的評価により実施することとし、それぞれの評価項目及び評価方法については、別紙1及び別紙2のとおりとする。

#### (2) 外部評価

評議員会において、自己評価に係る各評議員の意見等を取りまとめ、公表するものとする。

## 栃木県立美術館中期計画－第3期－ 定量的評価

## ○ 評価項目（18項目）

項 目		評 価 点	目標値
調査研究	1	研究公開と社会貢献回数	40 回
展覧会	2	企画展開催回数	4 回
	3	企画展関連イベント回数	20 回
	4	コレクション展開催回数	4 回
	5	アートリンクとちぎ開催回数	2 回
普及教育	6	学校等観覧受入件数	50 件
	7	イベント、ワークショップ等開催回数	15 回
	8	あーとネットとちぎ開催回数	11 回
	9	学芸員実習受入回数	1 回
	10	社会教育実施回数	4 回
広報	11	公式ホームページ訪問数（セッション数）	60,000 回
	12	SNSによる情報提供回数	400 回
入館者数	13	年間入館者数（350,000人／5年間）	70,000 人
様々な主体との連携	14	ミュージアムショップ運営事業者との打合せ回数	4 回
	15	レストラン運営事業者との打合せ回数	4 回
開かれた美術館づくり	16	社会福祉施設等観覧受入件数	30 件
	17	社会教育施設等観覧受入件数	15 件
	18	観光その他観覧受入件数	10 件

## ○ 評価方法

達成率（実績／目標値）を算定し、3段階（A・B・C）により評価する。

- ・ A評価：達成率 100%以上
- ・ B評価：達成率 70%以上 100%未満
- ・ C評価：達成率 70%未満

## 栃木県立美術館中期計画－第3期－ 定性的評価

## ○ 評価項目 (57 項目)

評 価 項 目		達成度
館運営全般		
1	館内各課と本庁関係課との連絡調整・情報共有体制は構築できたか	
2	主要事業を組織的・戦略的に遂行するため、定例・随時の課長会議を開催し、十分協議したか	
3	学芸会議等による事務事業の進捗管理は定期的実施したか	
4	年報やホームページ等で館の運営状況や事業の評価結果を公表したか	
調査研究		
5	調査研究内容について学芸課内で情報共有したか	
6	調査研究予算の獲得に向け、積極的に助成金の応募等に取り組んだか	
7	県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	
8	国内外の最新の美術状況についても研究に生かしたか	
収集保存		
9	収集方針に沿った収集を行ったか	
10	作品の保存状況等について定期的に点検したか	
11	収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	
12	収集作品の修復は計画的に行ったか	
13	収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	
13	寄贈者に対して適切な対応を実践したか	
15	収集した作品のデジタルアーカイブ化を進め、効率的な管理や鑑賞機会の提供に生かしたか	
16	収集に関する情報収集は定期的に行ったか	
展覧会		
17	企画展・コレクション展は、計画通りに開催できたか	
18	調査研究の成果を企画展に生かしたか	
19	本県ゆかりの作家や新たな美術ジャンルに係る企画等、多様な鑑賞ニーズを踏まえた展示を工夫したか	
20	他館、民間企業との連携に取り組んだか	
21	音声ガイドは適宜更新し、利用促進を図ったか	

評価項目		達成度
22	図録又は解説のための小冊子等を作成したか	
23	企画展の開催経費を踏まえ、適切な観覧料を設定したか	
24	入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	
25	入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	
26	企画展の自己評価を行い、検証をしたか	
普及教育		
27	イベント、ワークショップ等は計画通り実施できたか	
28	参加定員の設定は適切だったか	
29	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	
30	団体等の要望に沿ったオリエンテーションを実施したか	
31	学校観覧の受入れに際し、要望を踏まえた支援・協力を行ったか	
32	鑑賞教育の充実に向け、教員とのネットワークづくりや、各種提案・助言等に取り組んだか	
33	各事業の振り返りを実施したか	
施設管理		
34	機械・設備の不具合等発生時に、応急措置や改修等を速やかに行ったか	
35	多数の入館者が来場した際に、混雑状況に応じた案内誘導や情報発信を行ったか	
県域の中核美術館としての取組		
36	県内外の他の美術館・博物館等との主体的な交流に取り組んだか	
37	市町美術館等の協力要請に対し、適切な支援を行ったか	
38	栃木県博物館協会の活動に積極的に協力したか	
39	学会、研究会、委員会等において積極的に発表・提言等を行ったか	
40	研究者・学生等からの相談等に対し、きめ細かな情報提供等の支援を行ったか	
41	学芸員実習において、丁寧な助言・指導を行ったか	
広報		
42	企画展を広く周知するため、地元メディア等に対する取材要請を行ったか	
43	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	
44	ホームページやSNSを活用し、タイムリーな情報提供ができたか	

評価項目		達成度
45	展覧会のテーマや主たるターゲット層を踏まえ、戦略的に効果的な広報を行ったか	
入館者数		
46	企画展毎に入館者数の増加・減少の要因について検証したか	
様々な主体との連携		
47	栃木県立美術館友の会の事業の円滑な運営に協力したか	
48	企画展と連動した商品展開等についてミュージアムショップの運営事業者に提案等を行ったか	
49	企画展と連動したランチメニュー等について、レストランの運営事業者とともに検討したか	
50	ボランティアを活用した普及教育事業や広報活動は実施したか	
危機管理		
51	災害等に備え、危機管理マニュアルを整備し、訓練等を実施したか	
52	事故等の損害賠償リスクに備え、保険加入等の対策は講じたか	
53	情報資産を適切に管理するための情報セキュリティ対策は講じたか	
54	感染症の発生動向等を踏まえ、必要な感染防止対策を講じたか	
開かれた美術館づくり		
55	子どもとその保護者、妊娠中の方、若者、高齢者、障害者、外国人等、誰もが利用しやすい鑑賞環境整備やイベント実施等に取り組んだか	
地域の活力向上への寄与		
56	観光、まちづくり、福祉等、他施策が行う事業との連携に取り組んだか	
「文化と知」の創造拠点整備構想を踏まえた取組		
57	整備に向けた関係部署からの照会等に適宜対応し、現場の課題を踏まえた情報提供・提案等を行ったか	

## ○ 評価方法

- (1) 各項目の達成度について、十分達成した場合「◎」、概ね達成した場合「○」、不十分だった場合「△」として評価し、点数化（◎＝3点、○＝2点、△＝1点）。
- (2) 達成率（評価点数の合計／満点）を算定し、3段階（A・B・C）により評価する。
  - ・ A評価：達成率 100%以上
  - ・ B評価：達成率 70%以上 100%未満
  - ・ C評価：達成率 70%未満

## 栃木県立美術館中期計画－第3期－ 定量的評価

## ○ 評価項目（18項目）

項 目		評 価 点	目標値
調査研究	1	研究公開と社会貢献回数	40 回
展覧会	2	企画展開催回数	4 回
	3	企画展関連イベント回数	20 回
	4	コレクション展開催回数	4 回
	5	アートリンクとちぎ開催回数	2 回
普及教育	6	学校等観覧受入件数	50 件
	7	イベント、ワークショップ等開催回数	15 回
	8	あーとネットとちぎ開催回数	11 回
	9	学芸員実習受入回数	1 回
	10	社会教育実施回数	4 回
広報	11	公式ホームページ訪問数（セッション数）	60,000 回
	12	SNSによる情報提供回数	400 回
入館者数	13	年間入館者数（350,000人／5年間）	70,000 人
様々な主体との連携	14	ミュージアムショップ運営事業者との打合せ回数	4 回
	15	レストラン運営事業者との打合せ回数	4 回
開かれた美術館づくり	16	社会福祉施設等観覧受入件数	30 件
	17	社会教育施設等観覧受入件数	15 件
	18	観光その他観覧受入件数	10 件

## ○ 評価方法

達成率（実績／目標値）を算定し、3段階（A・B・C）により評価する。

- ・ A評価：達成率 100%以上
- ・ B評価：達成率 70%以上 100%未満
- ・ C評価：達成率 70%未満

## 栃木県立美術館中期計画－第3期－ 定性的評価

## ○ 評価項目 (57 項目)

評 価 項 目		達成度
館運営全般		
1	館内各課と本庁関係課との連絡調整・情報共有体制は構築できたか	
2	主要事業を組織的・戦略的に遂行するため、定例・随時の課長会議を開催し、十分協議したか	
3	学芸会議等による事務事業の進捗管理は定期的実施したか	
4	年報やホームページ等で館の運営状況や事業の評価結果を公表したか	
調査研究		
5	調査研究内容について学芸課内で情報共有したか	
6	調査研究予算の獲得に向け、積極的に助成金の応募等に取り組んだか	
7	県内の現役作家等についての研究にも積極的に対応したか	
8	国内外の最新の美術状況についても研究に生かしたか	
収集保存		
9	収集方針に沿った収集を行ったか	
10	作品の保存状況等について定期的に点検したか	
11	収蔵庫等の温湿度管理は適正に行ったか	
12	収集作品の修復は計画的に行ったか	
13	収集作品の他館及び県内市町への貸出に前向きに対応したか	
13	寄贈者に対して適切な対応を実践したか	
15	収集した作品のデジタルアーカイブ化を進め、効率的な管理や鑑賞機会の提供に生かしたか	
16	収集に関する情報収集は定期的に行ったか	
展覧会		
17	企画展・コレクション展は、計画通りに開催できたか	
18	調査研究の成果を企画展に生かしたか	
19	本県ゆかりの作家や新たな美術ジャンルに係る企画等、多様な鑑賞ニーズを踏まえた展示を工夫したか	
20	他館、民間企業との連携に取り組んだか	
21	音声ガイドは適宜更新し、利用促進を図ったか	

評価項目		達成度
22	図録又は解説のための小冊子等を作成したか	
23	企画展の開催経費を踏まえ、適切な観覧料を設定したか	
24	入館者の鑑賞状況等をチェックし交流等を図ったか	
25	入館者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	
26	企画展の自己評価を行い、検証をしたか	
普及教育		
27	イベント、ワークショップ等は計画通り実施できたか	
28	参加定員の設定は適切だったか	
29	参加者の満足度等をアンケート等で把握し、その結果を検証したか	
30	団体等の要望に沿ったオリエンテーションを実施したか	
31	学校観覧の受入れに際し、要望を踏まえた支援・協力を行ったか	
32	鑑賞教育の充実に向け、教員とのネットワークづくりや、各種提案・助言等に取り組んだか	
33	各事業の振り返りを実施したか	
施設管理		
34	機械・設備の不具合等発生時に、応急措置や改修等を速やかに行ったか	
35	多数の入館者が来場した際に、混雑状況に応じた案内誘導や情報発信を行ったか	
県域の中核美術館としての取組		
36	県内外の他の美術館・博物館等との主体的な交流に取り組んだか	
37	市町美術館等の協力要請に対し、適切な支援を行ったか	
38	栃木県博物館協会の活動に積極的に協力したか	
39	学会、研究会、委員会等において積極的に発表・提言等を行ったか	
40	研究者・学生等からの相談等に対し、きめ細かな情報提供等の支援を行ったか	
41	学芸員実習において、丁寧な助言・指導を行ったか	
広報		
42	企画展を広く周知するため、地元メディア等に対する取材要請を行ったか	
43	広報体制を確立し、各自の役割分担が明確になっているか	
44	ホームページやSNSを活用し、タイムリーな情報提供ができたか	

評価項目		達成度
45	展覧会のテーマや主たるターゲット層を踏まえ、戦略的に効果的な広報を行ったか	
入館者数		
46	企画展毎に入館者数の増加・減少の要因について検証したか	
様々な主体との連携		
47	栃木県立美術館友の会の事業の円滑な運営に協力したか	
48	企画展と連動した商品展開等についてミュージアムショップの運営事業者に提案等を行ったか	
49	企画展と連動したランチメニュー等について、レストランの運営事業者とともに検討したか	
50	ボランティアを活用した普及教育事業や広報活動は実施したか	
危機管理		
51	災害等に備え、危機管理マニュアルを整備し、訓練等を実施したか	
52	事故等の損害賠償リスクに備え、保険加入等の対策は講じたか	
53	情報資産を適切に管理するための情報セキュリティ対策は講じたか	
54	感染症の発生動向等を踏まえ、必要な感染防止対策を講じたか	
開かれた美術館づくり		
55	子どもとその保護者、妊娠中の方、若者、高齢者、障害者、外国人等、誰もが利用しやすい鑑賞環境整備やイベント実施等に取り組んだか	
地域の活力向上への寄与		
56	観光、まちづくり、福祉等、他施策が行う事業との連携に取り組んだか	
「文化と知」の創造拠点整備構想を踏まえた取組		
57	整備に向けた関係部署からの照会等に適宜対応し、現場の課題を踏まえた情報提供・提案等を行ったか	

## ○ 評価方法

- (1) 各項目の達成度について、十分達成した場合「◎」、概ね達成した場合「○」、不十分だった場合「△」として評価し、点数化（◎＝3点、○＝2点、△＝1点）。
- (2) 達成率（評価点数の合計／満点）を算定し、3段階（A・B・C）により評価する。
  - ・ A評価：達成率 100%以上
  - ・ B評価：達成率 70%以上 100%未満
  - ・ C評価：達成率 70%未満